

『防長風土注進案』の村別地図データ作成

中村 大*・五島淑子

A Generation of Base Map Data of *Bōchō Fūdo Chūshin-an* in the 19th Century

NAKAMURA Oki, GOTO Yoshiko

(Received September 26, 2014)

キーワード：地理情報システム Geological information system (GIS)、行政区域データ
Administrative zones data、近似的な復元 Approximate reconstruction

はじめに

本論文では、地理情報システム (GIS) による分析により適した『防長風土注進案』村別地図データの作成方法について述べる。従来の地図データから大きく改善された点は、今回の地図が緯度経度の座標系情報を保持することである。今後は地形・気象など様々なデータとの連携が容易になり、『防長風土注進案』研究の進展に寄与することが期待される。

1. 先行ベースマップの概要と課題

『防長風土注進案』データベースの成果を空間的に表示するための地図データ(ベースマップ)はこれまでに2つ製作されている。一つは五島が1980年代後半にフォートランで分布図を描画するために作成したもの、もう一つは2002年に発表された D. ミホバ教授 (山口大学教育学部) の作成によるシェープファイル形式の面データ (2002年版) である。いずれも「防長両国村別地図」をトレース原図あるいは主要な参照資料としている。この地図は、明治17年作成の「山口県全図」をベースにし、『防長風土注進案』に記載されている村名や他の村との隣接関係を参考に、村の範囲を復元したものである。『山口県近世史研究要覧』(1976年)、『防長歴史用語辞典』(1986年)にも掲載されている。

しかしながら、この「防長両国村別地図」に依拠して GIS 用の村別地図 (面データ) を作成する場合、この地図に緯度経度のポイントが付されていないことが障害となる。2002年度版のベースマップは、ArcGIS で表示は可能だが、座標系が「未設定」になるため、他の地図データとの重ね合わせなどが円滑にできない。ならば、形状を変形させながら座標系にのりよう修正作業を行おうとしても、原図の「防長両国村別地図」がもつ図形的な歪みは、部分ごとに東西南北の伸縮度合いが異なるため、手作業で現在の地図に重ねることは至難の業である。海岸線は細部が省略されるなど形状が若干変化しているため、外形線 (海岸線) で合わせることも難しい。これら2種類のベースマップは「防長両国村別地図」という絵地図 (イラスト) をデジタルトレースし、防長風土注進案データベースとリンクさせてその情報を地図図形上に表示できるようにしたもの、といえる。

* 立命館大学グローバル・イノベーション研究機構

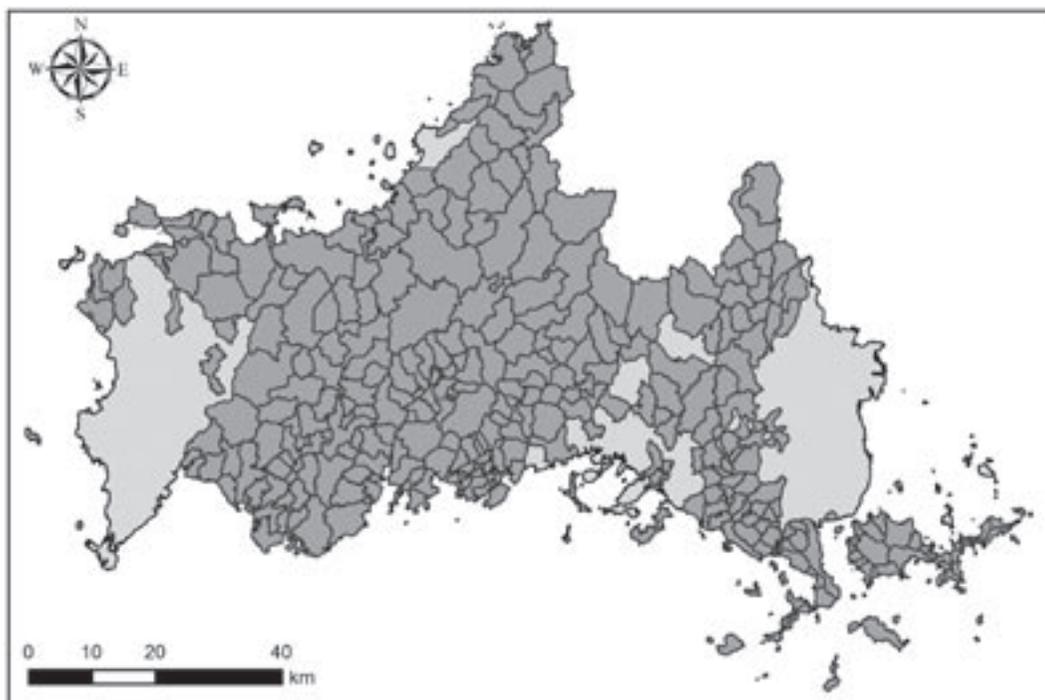


図1 防長風土注進案ベースマップ2014年版（村の境界線は長州藩内のみ表示）

つまり、「防長両国村別地図」からのトレースでは、座標系を持つ地図データの作成は無理であり、何か他の方法を考えなくてはならない、ということである。

2. 防長風土注進案ベースマップ2014年版の作成方法

防長風土注進案ベースマップ2014年版（図1～3、表1・2）の作成方法の最大の特徴は、現代の地図データから19世紀中葉（江戸時代末期）における長州藩の村の範囲を近似的に復元した点にある。公開されている行政界面データの結合・分割により注進案の村別地図の近似的復元を行うことができれば、座標系をもつ地図データが作成できるため、GISでの活用に好適である。そこで注目した行政区域データが総務省の国勢調査データに含まれている大字区域の面データである。森下徹教授（山口大学教育学部）ほかから、現在の大字区域と江戸時代の村の範囲はおおよそ一致する場合が多いというご教示をいただき、作業が可能と判断した。

作業1. 大字区域シェープファイルの入手

大字区域データは、ホームページ「政府統計の総合窓口 e-Stat」から入手可能である。サイトの構築には総務省統計局を中心として各省庁が参画し、独立行政法人統計センターが運用管理を行っている。トップページから、地図や図表で見る > 地図で見る統計（統計GIS）データダウンロード > 統計表検索画面まで進むと、ダウンロード用の表内容を選択する画面が表示される。下記の手順で選択した。

Step 1：統計調査（集計）を選択では「平成12年国勢調査（小地域）」。

Step 2：統計表を選択（複数選択可能）では世帯人員別一般世帯数。

Step 3：地域選択では、山口県を選択。データは市区町村別になっているため、すべての市

町村を選択してダウンロードを行う。

データは日本測地系・世界測地系・平面直角座標系の各種座標系について、シェープ (shape) 形式と G-XML 形式で提供されている。市町村別データを一つのファイルに結合し作業を行いやすくするには、フリーソフトの「GeoMerge」や、ArcGIS10のジオプロセッシング (メニューバー) のマージを用いる。座標系については分析者の必要に応じて選択でき、ArcGIS では Toolbox > データ管理ツール > 投影変換と座標変換で座標系間の相互変換も可能である。山口県内のみでの分析なら見慣れた地図として表示される平面直角系が適切である。今回は九州や四国などの隣接地域や日本国内での比較研究も考慮し、世界測地系のデータを使用している。この座標系を採用した地図は、平面直角座標系に比べ縦方向が若干縮まる。

作業 2. 行政区域データの対応・分割・結合による村の範囲の近似的な復元

大字区域を村の範囲に近似させる方法は、下記の 4 つのパターンに大別できる。

ケース 1 : 1 対 1 の対応。大字名と注進案の村名が「ほぼ同一名」の場合は、大字区域をそのまま注進案の村の範囲とした。島は同じ大字に対応する村に含める。

ケース 2 : 大字名が注進案の村名にない、つまり大字名と村名が一致しない場合は、字名の類似性や『防長風土注進案』に記載されている地名や村どうしの隣接関係、「防長両国村別地図」に表示された位置関係などを参考にし、以下の方法を採用した。

2 a : 1 対 1 の対応。1 村の範囲に該当すると思われる大字区域 1 個を対応させる。

2 b : 結合。複数の大字を一括して村の範囲とする。町名変更が多く直線的に区画されている都市部や沿岸部の埋め立て地では、直線的な形状となる。

ケース 3 : 分割。大字名が注進案の複数村を含むと判断できる場合は、各村の隣接関係を参考に大字区域の面データを分割した。共通の地名を含む大字区域を結合してから分割したケースも含む。細分線の根拠が現段階では不明である場合、直線で分割し暫定処置であることを明確にしている。

ケース 4 : 結合。注進案の記載が複数の村を一括している場合は、それに対応すると思われる字名を結合した。

3. 大字区域データの分割・統合の記録 (図 2・3、表 1・2)

以下にケース 1 以外で説明が必要と思われる事例をまとめる。

大島宰判

- ・久賀村・同浦：ケース 4。久賀村と久賀浦を一括しており、周防大島町大字久賀とする。
- ・頭島、浮島、前島は注進案での村名が判然としないため、今回の地図からは除外した。

上関宰判

- ・上関、戸津村、白井田村、四代村、蒲井村：ケース 3。上関町長島島内を各村の位置関係を参考に 5 つに分割した。上関浦方は上関の本州側に面した一部をあてた。

熊毛宰判

- ・上小周防村、小周防村：ケース 3。光市大字小周防を分割し、北部を上小周防村、南部を小周防村とした。
- ・室積村、室積浦：ケース 2 b。光市室積 1～8 丁目を室積浦、それ以外大字室積は室積村。
- ・八代村：ケース 3。一部が三丘之内八代村として別に記述されている。宍戸氏の領地が三丘と総称されており、三丘之内八代村の表記は八代村の一部が宍戸氏の領地であることを

示すと考えられる。八代村内の南東部に三丘之内八代村の面を作成した。

- ・ケース 2 a：長野村に徳山市大字西長野、岩田村に光市大字立野、立野村に光市大字立野旭・山田をそれぞれ対応させた。

都濃宰判

- ・末武中村、末武下村：ケース 3。下松市大字末武下・美里町・笠戸島を一括して末武下村とし、それ以东と末武中を末武中村とした。
- ・長穂給：ケース 3。長穂村内にある某氏の給地を示すと思われる。境界が不明のため、暫定処置として長穂村内に長穂給を示す円形の面を作成した。
- ・下谷（くだたに）村：防長両国村別地図では徳山藩の所領とされているが、誤りであり長州藩に含めた。
- ・川上村：ケース 2 a。徳山市大字中野に対応させた。

三田尻宰判

- ・ケース 2 a：西ノ浦前ヶ浜に防府市大字西浦新地西東、西ノ浦鹿角村に防府市大字西浦女山を対応させた。
- ・西ノ浦新御開作：ケース 2 b。防府市大字西浦新地西・西浦新地東・西浦干拓をあてた。

山口宰判

- ・ケース 2 a：桜畑村に山口市大字宮野下、恋路村に山口市大字宮野下上恋路、仁保庄下郷に山口市大字仁保中郷、深野村に山口市大字仁保下郷を対応させた。
- ・中村、七房村：ケース 3。山口市大字宮野上のうち、中村に南部、七房村に北部をあてた。
- ・御堀村、問田村：ケース 3。山口市。大内御堀と付く大字を結合したのち南北に分割。北部を御堀村、南部を問田村とした。
- ・平井庄・吉田郷・恒富保：ケース 4。山口市。平井あるいは吉田と付く大字名を結合し対応させた。恒富保（つねとみほ）に対応すると思われる字名は見い出せなかった。
- ・黒川村、平野村：ケース 3。山口市。黒川が付く大字名をすべて結合し、その南東部を直線で区切り平野村に、残りの部分を黒川村にそれぞれ対応させた。
- ・上宇野令：ケース 2 b。山口市大字上宇野令のほか、山口市の白石・滝町・天花も含めた。
- ・下宇野令・中尾：ケース 4。山口市大字下宇野令と大字中尾のほか、山口市中心市街地南西部の湯田温泉付近も含めた。北は山口市緑町・中園町、東は富田原町、南は葵 1 丁目・葵 2 丁目、西は赤妻町・錦町までを含む範囲である。
- ・山口街：ケース 2 b。山口市の大殿大路を中心に北は山口市木町、東は金古曾町、南は三和町、西は春日町までを含む範囲とした。

小郡宰判

- ・ケース 2 a：上中郷に小郡市大字上郷、本郷に山口市西（秋穂西）を対応させた。
- ・青江村、大海村：ケース 3。山口市東（秋穂東）を分割、北半を大海村、南半を青江村。

舟木宰判

- ・万倉村・今富村：ケース 4。宇部市大字奥万倉と大字今富を結合した。
- ・舟木村、舟木市村、逢阪村：ケース 3。宇部市大字舟木を三分割し対応させた。
- ・西高泊村、後瀉御開作：ケース 3。山陽小野田市大字仙崎と大字西高泊を結合し、大部分を西高泊村に当て、海岸部を後瀉御開作に対応させた。
- ・西須恵村：ケース 2 b。山陽小野田市の南部、有帆川以南をあてた。大字小野田、須恵 1～3 丁目を主体とする。

- ・藤曲村・奥壇村・中山村：ケース4。宇部市。厚東川沿いの中山と藤曲を含む大字名すべてを結合した。奥壇およびそれに類似する大字はない。
- ・小串村・宇部村・川上村：ケース4。宇部市南部の大字小串・大字上宇部・大字川上とその周辺の大字を結合した。
- ・木田村・瓜生野村・車地村・山中村：ケース4。宇部市内陸部の木田・山中・善和の地名を含む大字すべてを結合し、この範囲とした。
- ・小野櫛原：ケース2b。宇部市大字櫛原・荒瀬および小野が付く大字名のうち一之坂・白麻・大山・花香・両川・岩川・来見・瀬戸・美保・平原を結合し、その範囲とした。
- ・如意寺村・下ノ小野村：ケース4。宇部市大字如意寺・下小野・西下小野・小野阿武瀬を対応させた。
- ・市ノ小野：ケース2b。宇部市東市ノ小野と西市ノ小野を結合した。
- ・宇内村・上ノ小野村：ケース4。宇部市大字小野上小野・小野上宇内・小野中宇内・小野下宇内を結合した。

吉田宰判

- ・末益村：ケース2b。山陽小野田市大字郡・山川・鴨庄を結合した。
- ・土生浦：ケース3。山陽小野田市大字殖生・福田を結合した範囲から、長府藩領分を除外する必要があるが、境界は複雑に入り組むため現段階ではすべて土生浦に含めている。
- ・山中村：ケース2b。美祢市大字山中・堀越・奥万倉を結合し対応させた。
- ・今浦御開作：ケース2b。入江を埋め立てた開作地は新地と総称されていたことから、下関市の今浦町に加え新地町、新地西町、上新地町1～5丁目を加え結合。

先大津宰判

- ・ケース2a：日置村に長門市大字日置中、日置上村に同市大字日置上、日置下村に同市大字日置下をそれぞれ対応させた。
- ・久富・新別名・河原・蔵小田・角山：当時の行政事情により各村の一部の会計を合算したまとまりであり、地理的空間を有する区分ではない。そのため円形の面で表示した。
- ・神田下村：ケース3。下関市大字神田から長府藩領の島戸浦を除外する必要がある。
- ・瀬戸崎浦、白潟浦、青海村大日比浦：ケース3。長門市大字仙崎の範囲のうち、本州部分の半島先端部のみ白潟浦としそれ以外を瀬戸崎浦とした。島部は青海村大日比浦で一括されているのでそのまま対応させた。
- ・河島庄：ケース2b。現在の萩市中心部に相当。松本川・橋本川に挟まれた区域を一括。
- ・大井黒川村：ケース3。萩市大字大井・黒川を結合し北半の徳山藩領分を除いた範囲。
- ・川上村：萩市。大字の名称が元データになく無名になっている。詳細を確認する必要あり。

作成した防長風土注進案ベースマップ2014年版には、今後の活用を考慮し数種類の情報を付与している。村名は原典表記と常用漢字の2種類の表記を用意した。文献資料の活字化における一般的な慣例に従い、通常村名表記は常用漢字を用いる。五島と森下教授により「・」の要不要も確認している。全326村のうち41村の村名漢字表記が変更となる。読みがなも必要不可欠である。そのほか、所属宰判の名称・宰判コード・巻番号・巻別村番号も加える。巻番号と巻別村番号を合わせた村コードをID（識別子）として利用できるが、一覧表ではより分かりやすい連番をIDにしている。同名異村は8件あり（表1・2でトーンをかけている村）、IDを用いないとArcGISでのテーブル結合が正しく実行されない。



図2 防長風土注進案ベースマップ2014年版 西部（图中番号は表1・2と対応する）



図3 防長風土注進案ベースマップ2014年版 東部（図中番号は表1・2と対応する）

表1 『防長風土注進案』ベースマップ2014年版 村名一覧 (1)

No	宰判	村名(常用漢字)	No	宰判	村名(常用漢字)	No	宰判	村名(常用漢字)
1	大島	久賀村・同浦	56	前山代	鹿野上村	111	都濃	末武上村
2	大島	日前村	57	前山代	鹿野中村	112	都濃	末武中村
3	大島	西方村	58	前山代	鹿野下村	113	都濃	末武下村
4	大島	森村	59	前山代	大瀬村	114	都濃	久米村
5	大島	平野村	60	上関	麻郷	115	都濃	須々万本郷村
6	大島	内入村	61	上関	別荘村	116	都濃	須々万奥村
7	大島	和佐村	62	上関	上田布施村	117	都濃	長穂村
8	大島	和田村	63	上関	下田布施村	118	都濃	下谷村
9	大島	小泊村	64	上関	渡野村	119	都濃	切山村
10	大島	地家室	65	上関	大波野村	120	都濃	川上村
11	大島	神家室	66	上関	平生村	121	都濃	小畑村
12	大島	安下庄	67	上関	曾根村	122	都濃	戸田村
13	大島	秋村	68	上関	大野村	123	都濃	湯野村
14	大島	出井村	69	上関	宇佐木村	124	都濃	長穂給
15	大島	戸田村	70	上関	伊保庄	125	都濃	鯛ヶ浜浦
16	大島	日見村	71	上関	小郡村	126	都濃	平田開作村
17	大島	神浦村	72	上関	佐賀村	127	都濃	三井村
18	大島	油字村	73	上関	尾国村	128	都濃	茂江村
19	大島	油良村	74	上関	室津村・同浦	129	都濃	大河内村
20	大島	外入村	75	上関	上関	130	三田尻	三田尻村
21	大島	横見村	76	上関	上関浦方	131	三田尻	三田尻町
22	大島	志佐村	77	上関	戸津村	132	三田尻	東佐波令
23	大島	屋代村	78	上関	白井田村	133	三田尻	西佐波令
24	大島	小松村	79	上関	四代村	134	三田尻	宮市町
25	大島	遠崎村	80	上関	藤井村	135	三田尻	仁井令
26	大島	三藩村	81	上関	馬島	136	三田尻	植松村
27	大島	椋野村	82	上関	佐郷島	137	三田尻	伊佐江村
28	大島	土井村	83	上関	牛島	138	三田尻	新田村
29	大島	平部島	84	上関	岩見島	139	三田尻	向島
30	大島	伊保田村	85	上関	八島	140	三田尻	浜方
31	奥山代	宇佐村	86	熊毛	上久原村	141	三田尻	田島
32	奥山代	宇佐郡大原村	87	熊毛	下久原村	142	三田尻	西ノ浦
33	奥山代	本谷村	88	熊毛	長野村	143	三田尻	西ノ浦前ヶ浜
34	奥山代	秋操村	89	熊毛	原村	144	三田尻	切畑村
35	奥山代	阿賀村	90	熊毛	八代村	145	三田尻	江泊村
36	奥山代	中山村	91	熊毛	呼坂村	146	三田尻	西ノ浦新御開作
37	奥山代	生見村	92	熊毛	上小周防村	147	三田尻	上右田村
38	奥山代	下畑村	93	熊毛	小周防村	148	三田尻	下右田村
39	奥山代	南桑村	94	熊毛	島田村	149	三田尻	高井村
40	奥山代	波野村	95	熊毛	光井村	150	三田尻	大崎村
41	奥山代	本郷村	96	熊毛	室積村	151	三田尻	佐野村
42	奥山代	黒沢字塚村	97	熊毛	室積浦	152	三田尻	西ノ浦鹿角村
43	奥山代	須川村	98	熊毛	岩田村	153	三田尻	牟礼村
44	奥山代	深川村	99	熊毛	東荷村	154	三田尻	真尾村
45	奥山代	苜谷村	100	熊毛	塩田村	155	三田尻	和字村
46	奥山代	小川添谷村	101	熊毛	宿井村	156	三田尻	久兼村
47	前山代	広瀬村	102	熊毛	川西村	157	三田尻	奥畑村
48	前山代	中ノ瀬大野村	103	熊毛	三丘之内小松原村	158	三田尻	鈴屋村
49	前山代	四馬神村	104	熊毛	三丘之内安田村	159	三田尻	奈美村
50	前山代	根笠村	105	熊毛	三丘之内清尾村	160	三田尻	中山村
51	前山代	三瀬川村	106	熊毛	三丘之内樋口村	161	徳地	華崎河内村
52	前山代	瀬原村	107	熊毛	三丘之内八代村	162	徳地	畢山村
53	前山代	中須村	108	熊毛	釜川村	163	徳地	高瀬村
54	前山代	野谷村	109	熊毛	立野村	164	徳地	夏切村
55	前山代	金峯村	110	熊毛	三輪村	165	徳地	坪村

表2 『防長風土注進案』ベースマップ2014年版 村名一覧 (2)

No	宰判	村名(常用漢字)	No	宰判	村名(常用漢字)	No	宰判	村名(常用漢字)
166	徳地	馬神米光村	221	舟木	万倉村・今富村	276	先大津	井上村
167	徳地	上村	222	舟木	東方倉村・矢端村・芦河内村	277	先大津	後畑村・角山村
168	徳地	藤木村	223	舟木	西万倉村	278	先大津	阿川村
169	徳地	島地山畑村	224	舟木	舟木村	279	先大津	津黄村・野田村
170	徳地	柚木村	225	舟木	舟木市村	280	先大津	向津島村
171	徳地	野谷村	226	舟木	逢阪村	281	先大津	神田上村
172	徳地	船路村	227	舟木	東高泊村・有帆村	282	先大津	神田下村
173	徳地	引谷村	228	舟木	西高泊村	283	先大津	滝部村
174	徳地	三谷村	229	舟木	後潟御開作	284	前大津	三隅村
175	徳地	八坂村	230	舟木	東須恵村	285	前大津	通浦
176	徳地	深谷村	231	舟木	西須恵村	286	前大津	青海村・大日比浦
177	徳地	小古祖村	232	舟木	開波村	287	前大津	瀬戸崎浦
178	徳地	堀村	233	舟木	藤曲村・奥壇村・中山村	288	前大津	白鷺浦
179	徳地	伊賀地村	234	舟木	中野御開作・雲崎御開作	289	前大津	深河村
180	徳地	岸見村	235	舟木	小串村・宇部村・川上村	290	前大津	俵山村
181	山口	桜畑村	236	舟木	神ノ尾村・広瀬村・末宿村・櫛井村	291	前大津	地吉村
182	山口	恋踏村	237	舟木	吉見村	292	前大津	殿居村
183	山口	中村	238	舟木	木田村・瓜生野村・草池村・山中村	293	前大津	殿敷村
184	山口	七房村	239	舟木	松小野	294	前大津	杵木村
185	山口	御堀村	240	舟木	藤河内村	295	前大津	真木村
186	山口	仁保庄上郷	241	舟木	小野棟原	296	当島	河島庄
187	山口	仁保庄下郷	242	舟木	如意寺村・下ノ小野村	297	当島	樽東分
188	山口	羅目村	243	舟木	市ノ小野	298	当島	樽西分
189	山口	小鯖村	244	舟木	宇内村・上ノ小野村	299	当島	福井下村
190	山口	長野村	245	吉田	吉田村	300	当島	福井上村
191	山口	深野村	246	吉田	末益村	301	当島	紫福村
192	山口	矢田村	247	吉田	松尾村	302	当島	大井黒川村
193	山口	間田村	248	吉田	厚狭村	303	当島	山田村
194	山口	平井庄・吉田郷・恒富保	249	吉田	津右田村	304	当島	三見村
195	山口	矢原村	250	吉田	宇津井村	305	当島	川上村
196	山口	黒川村	251	吉田	土生浦	306	当島	明木村
197	山口	吉敷村	252	吉田	山野井村	307	当島	佐々並村
198	山口	平野村	253	吉田	今浦御開作	308	奥阿武	吉部村
199	山口	朝田村	254	吉田	伊佐村	309	奥阿武	高佐村
200	山口	上宇野舎	255	吉田	山中村	310	奥阿武	片俣村
201	山口	下宇野舎・中尾	256	吉田	於福村	311	奥阿武	鈴野川村
202	山口	山口街	257	吉田	厚保村	312	奥阿武	小川村
203	小郡	中下郷	258	吉田	河原村	313	奥阿武	田万村
204	小郡	上中郷	259	吉田	大瀧村	314	奥阿武	惣郷村
205	小郡	賀川村	260	美祢	大田村	315	奥阿武	蔵目宮村
206	小郡	江崎村	261	美祢	続木村	316	奥阿武	生雲村
207	小郡	佐山村	262	美祢	長田村	317	奥阿武	地福村
208	小郡	遠波村	263	美祢	真名村	318	奥阿武	嘉年村
209	小郡	井関村	264	美祢	岩永村	319	奥阿武	宇生賀村
210	小郡	阿知須浦	265	美祢	秋吉村	320	奥阿武	福田村
211	小郡	岐波村	266	美祢	嘉万村	321	奥阿武	弥富村
212	小郡	名田島	267	美祢	青景村	322	奥阿武	江崎村
213	小郡	二島村	268	美祢	赤村	323	奥阿武	須佐村
214	小郡	本郷	269	美祢	絵堂村	324	奥阿武	宇田村
215	小郡	青江村	270	美祢	長登村	325	奥阿武	木厚村
216	小郡	大海村	271	先大津	日置上村	326	奥阿武	徳佐村
217	小郡	陶村	272	先大津	日置下村・蔵小田村・角山村			
218	小郡	台道村	273	先大津	河原村・新別名村・久富村			
219	舟木	東吉部村	274	先大津	久富・新別名・河原・蔵小田・角山			
220	舟木	西吉部村	275	先大津	日置村			



図4 標高・陰影・河川のデータを重ね合わせた防長風土注進案ベースマップ

4. まとめ：活用の展望と今後の課題

今回作成したベースマップ2014年版の最大の利点は、ほかの地図データと組み合わせることで多彩な表現が可能になることである。図4のように、地形や河川を追加し地形環境を立体的に表現した地図は、産物とそのバックグラウンドの自然環境との関係をより具体的にイメージさせるだろう。注意すべき点は、ある産物の有無をシンボルで地図上に表示する場合、複数の島や飛び地を含む村ではシンボルはそのなかの一つのエリアにしか表示されないことである。面で塗りつぶす表示にすれば複数の島や飛び地も同一村として塗りつぶされるため問題はなくなる。また、大字区域データの瀬戸内海側では、埋め立てや港湾整備を反映して四角形の突起が並ぶような海岸線もかなり多く、江戸時代の海岸線らしくない。明治時代の陸測図などを参考に工業化以前の海岸線に置き換える作業が必要であろう。

本稿は科学研究費補助金「地理情報システムを活用した食文化研究の構築」(研究課題番号: 23500928、五島淑子代表)の助成による研究の一部である。最後に、種々のご教示やデータの提供をいただいた森下教授、ミホバ教授、松森智彦氏に御礼を申し上げる。

参考文献

- 荒木一視・五島淑子・ミホバ, D 2002 藩政期地誌書「防長風土注進案」のGIS化の試み: 歴史地理教材としての利用と歴史地理学への導入、山口大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 第13号, 1-13
- 石川卓美 1976 山口県近世史研究要覧 マツノ書店
- 石川卓美 1986 防長歴史用語辞典 マツノ書店
- 五島淑子 1990 19世紀中葉の日本の食生活に関する研究—『防長風土注進案』と『斐太後風土記』の分析を通して—, 1-148
- 山口県文書館 1960~1965 防長風土注進案 全22巻、山口県立山口図書館(復刻マツノ書店1983)